

騎兵と娘

1 月のきれいなある晩に

娘が歩いておりました

すると 道端で騎兵の声がして

いとしい人だと分かりました

娘はその馬の手綱をとって

馬小屋に連れて行きました

そして 好きなだけ食べるようにと

小麦と干し草をやりました

「かわいい娘さん 君に寄り添って

かわいい娘さん 君に寄り添って

その紐をみんな解きたい

かわいい娘さん 君にお別れする前に」

2 娘は男の手をとって

食卓に案内しました

そして 好きなだけ食べるようにと

パンとチーズを出しました

娘はワイングラスを手にとって

澄んだワインを注ぎました

「あなたと私の健康を祝して 乾杯

ようこそお帰りなさい

3 「殿方には ワインを

娘には 快活な若者を

騎士にはパンとチーズを

馬には小麦と干し草を」

そう言って 娘は男の床をのべました

まるで奥様のようにした

娘はキヤラマンコの上着を脱いで言いました

「あなた さあどうぞ」

4 男は大きなオーバーコートを脱いで

柔らかいビーバー帽もとりました

腰から銃を抜き取って

娘のそばに置きました

「かわいい娘さん いま僕たちは二人きり

かわいい娘さん 僕たちは二人きり

その紐をみんな解きたい

かわいい娘さん 君にお別れする前に」

5 らっぱの音が バールデイルに響きました

「騎兵ども 用意しろ」

太鼓の音が ステインマンの丘に響きました
「若者たちよ 親元を離れろ」
笛の音が クロムリーの岸に響きました
「お前ら ファイヴィの金貨に触れるな」
すると 男は起き上がって言いました
「娘さん お別れします」

6 「かわいい娘さん もうお別れします
かわいい娘さん お別れします
しかし この道をまた通ることがあれば
君の家で会いましょう」

7 娘は急いで上着を羽織り
スターリングまで男を追って行きました
すると 男はやっぱり言いました
「もう引き返しておくれ かわいい娘さん」
「ああ 私たち 今度いつ会えるのかしら
いつ私と結婚してくれるの」
「イグサが きれいな金色の輪になったら
僕はもう ぐずぐずしないよ」

8 「ああ 私たち 今度いつ会えるのかしら
いつ私と結婚してくれるの」
「ヒースの丘が 銀色の茂みになったら
僕はもう ぐずぐずしないよ」
「ああ 私たち 今度いつ会えるのかしら
いつ私と結婚してくれるの」
「ヒースの小枝が 牛の軛くわになったら
僕はもう ぐずぐずしないよ」

9 「ああ 私たち 今度いつ会えるのかしら
いつ私と結婚してくれるの」
「トリガイの貝殻が 銀の鈴になったら
僕はもう ぐずぐずしないよ」
「ああ 私たち 今度いつ会えるのかしら
いつ私と結婚してくれるの」
「リンゴの木が 海に生えたら
僕はもう ぐずぐずしないよ」

10 「ああ 私たち 今度いつ会えるのかしら
いつ私と結婚してくれるの」
「魚が空を飛んで 海が干上がったら
僕はもう ぐずぐずしないよ」
「ああ 私たち 今度いつ会えるのかしら

「いつ私と結婚してくれるの」
「霜や雪が 僕たちみんなを温めたら
僕はもう ぐずぐずしないよ」

11

「昨夜は 父ちゃんと母ちゃんが
私を可愛がってくれました」

今夜は お腹の子と一緒にあなたの側へ

ああ それがあなたと出会った運命なの」

「昨夜は お父さんとお母さんに

君は可愛がってもらいました

もしも お腹の子と一緒にいて来るなら

僕と出会ったことを後悔するよ

12

「ああ 引き返しておくれ かわいい娘さん

お願いだから 引き返しておくれ

ハイランドの丘を登るのは とても危険

血まみれの剣に 君は震え上がるだろう」

(近藤和子訳)